

「2024年度春季研究発表大会」のお知らせ (要旨の投稿期限延長のお知らせ)

更新履歴

2023年12月27日：「2024年度春季研究発表大会」のお知らせを公開

2024年2月6日：参加費と情報交換会費用を確定し、参加申込みのURLを公開

2024年2月26日：要旨の投稿期限延長（3月11日（月）23時59分）、タイムテーブル変更、
基調講演・ラウンドテーブルの情報追加

第37回 国際P2M学会 研究発表大会

The 37th Congress of International P2M Association

P2M を語る ～現場での活用から未来に向けた活動まで～

2024年度の国際P2M学会春季研究発表大会を、下記の要領にて開催いたします。大会テーマは、「P2Mを語る ～現場での活用から未来に向けた活動まで～」です。つきましては、会員の皆様の研究発表を募集いたします。発表ご希望の会員は、以下にご案内する申し込み要領をご参照のうえ、期限までにお申し込みください。本大会は千葉工業大学（津田沼キャンパス）における対面とオンラインのハイブリッド形式にて開催いたします。遠方の方でもご自宅やご勤務先からご参加いただけますので、ぜひこの機会をご利用いただければ幸いです。

1. 大会テーマ

P2M を語る ～現場での活用から未来に向けた活動まで～

2. 開催日・形式

開催日 : 2024年4月20日（土）

開催校 : 千葉工業大学 津田沼キャンパス 7号館4階（予定）
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼 2-17-1

開催形式 : 会場と配信のハイブリッド

受付開始時刻・場所 : 9:00 ・ 7号館4階

最寄駅 : JR 総武線／津田沼駅《南口》 徒歩 1分
京成線／京成津田沼駅下車《北口》 徒歩 10分
新京成線／新津田沼駅下車 徒歩 3分

アクセスマップ : <https://www.it-chiba.ac.jp/institute/access/tsudanuma/>

キャンパスマップ : <https://www.it-chiba.ac.jp/institute/campus/tsudanuma/>

※発表方法や参加方法の詳細は、決定次第本学会のHP上に掲載するとともに、オンラインでの参加方法は研究発表大会参加申込者にメールにて送信します。新型コロナウイルス感染症対策などの状況により、開催形態が変更となる可能性もあります。

3. 開催団体に関する情報

主催 : 一般社団法人 国際 P2M 学会 (※)

共催 : 千葉工業大学

会長 : 国際 P2M 学会会長 亀山秀雄

実行委員長 : 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科 教授 小笠原秀人

実行副委員長 : 千葉工業大学 社会システム科学部 経営情報学科 教授 新谷幸弘

後援 : 独立行政法人環境再生保全機構 (ERCA)

協賛 (五十音順) : 一般財団法人 エンジニアリング協会、一般財団法人 日本科学技術連盟、
一般社団法人 PMI日本支部、一般社団法人 研究・イノベーション学会、
一般社団法人 情報サービス産業協会、一般社団法人 日本生産管理学会、
公益社団法人 化学工学会、
特定非営利活動法人 日本プロジェクトマネジメント協会、
日本 MOT 学会、SPI コンソーシアム、日本ソーシャル・イノベーション学会

※一般社団法人 国際 P2M 学会 : 国際 P2M 学会事務局

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5

アカデミーセンター(平日 : 10 時~17 時) TEL: 03-6824-9371 / FAX: 03-5227-8631

4. 大会スケジュール : ※ 都合により、変更となる場合があります。

(9:30) - 12:00 研究発表 (午前の研究発表プログラムは、3 月中旬頃に決定予定)

12:00 - 13:00 昼食休憩

13:00 - 13:25 総会 (学会員のみ)

13:25 - 13:30 休憩

13:30 - 13:40 開会挨拶 亀山秀雄氏 (国際 P2M 学会会長)

開催校挨拶 千葉工業大学

13:40 - 13:45 オープニング (プログラムの説明)

13:45 - 15:20 ラウンドテーブル (3 テーマ)

テーマ 1 : GX 人材育成のプログラムマネジメント

テーマ 2 : P2M で語る地域活性化

テーマ 3 : P2M を活用した現場改善

15:20 - 15:30 休憩

15:30 - 15:50 ラウンドテーブルからの報告

15:50 - 16:50 基調講演 : 教育改革による大学力強化

小宮一仁氏、千葉工業大学学事顧問 / 工学部教授

16:50 - 17:00 閉会挨拶 久保裕史氏 (国際 P2M 学会副会長)

午後に開催するラウンドテーブルは、今回から新設する企画です。テーマを3つ設定し、各テーマに別れて発表や議論を行い、自由に意見交換をする場です。ラウンドテーブル終了後は、各テーマでどのような議論があったのか全体で共有します。

5. 大会趣旨

より良い開発の在り方や、より良いシステムや製品、より良いサービスを実現するには今の状況をより良くするための改善の取り組みが欠かせません。一方で、持続可能な社会の実現 (Sustainable Development) のためには、未来を見据えた活動が必要です。今の活動をより良くすることが未来に繋がり、未来を考えて活動することが、今の活動をより良い方向に向かわせることができるはずで、これらを実現するためには、プロジェクトとプログラムの両輪を回し続けることが重要です。

今回の春季研究発表大会での基調講演は、大学力強化のためにプログラムとプログラムの両輪を回し続けている実践に基づいた内容です。また、新しい企画として「ラウンドテーブル」を実施します。これは、テーマに分かれて自由な意見交換を行う場です。さらに、2019年秋季研究発表大会以来の「情報交換会」を開催します。みなさまの考えている今と未来をさまざまなセッションや場所で語る中で、P2Mの理解を深め、P2Mの活用方法のヒントを得ることが大切と考え、今回のテーマを設定しました。

今回も現地会場をメインとしたハイブリットで開催します。みなさまの参加を心よりお待ちしております。

6. 基調講演

題目：教育改革による大学力強化

講演者：小宮一仁氏（千葉工業大学学事顧問／工学部教授）

概要：大学の使命は教育、研究、社会貢献とされるが、日本の大学では評価の対象として研究成果が重視されることが多い。また大学の社会貢献は、マンパワーやボランティアの提供ではなく、本来、教育と研究の成果によってもたらされるべきものである。国際的な大学評価では教育と研究の両者の充実が求められており、日本の大学の国際的な評価を高めるためには、今以上に教育力の向上が必要であると考え。本講演では、千葉工業大学の学長として実施したさまざまな教育改革のプログラムの考え方や成果を含めて紹介する。そして大学における教育の成果が研究力や経営力をも引き上げる好循環を生み、大学の総合的な力の向上に繋がることを示す。

プロフィール：



東京都出身。1987年早稲田大学理工学部卒業後、大学院博士課程に進み博士（工学）の学位を受ける。早稲田大学助手、ケンブリッジ大学専任助教を経て、2001年より千葉工業大学教授。2012年、千葉工業大学学長に就任し2期8年を務めた。学長在任中から工学教育や大学マネジメントに関する講演を数多くの大学や企業等で行っている。文部科学省、人事院、国土交通省等の委員、関東工学教育協会会長、私立大学情報教育協会常務理事等を歴任している。

7. ラウンドテーブル

次の3つのテーマに分かれて自由な意見交換を行います。

テーマ1【現地会場開催】：GX人材育成のプログラムマネジメント

オーガナイザー：久保裕史（国際P2M学会）

概要：

世界規模でグリーントランスフォーメーション（GX）実現に向けた投資競争が加速しています。我が国においても、2050年カーボンニュートラル等の国際公約と産業競争力強化・経済成長を同時に実現すべく、昨年6月に「GX推進法」が施行されました。これにより、今後10年間で20兆円のGX経済移行債発行と150兆円を超える官民投資が実行されます。また、「成長志向型カーボンプライシング」として、2026年から排出量取引、2028年から化石燃料賦課金が導入されます。これらにより、社会経済にイノベーション創出、生産性・ブランド力・人的資産価値向上の好循環が創出され、サプライチェーン全体の構造改革が急速かつ迅速に進展することが期待されています。

企業では、GXの重要性と緊急性への全社的な理解を促し、中核人材が主体的にGXを推進できるような環境や体制を整えていく必要があります。社内教育は、その重要な役割を担いますが、GX人材に必要な知識と技術は、職場内訓練（OJT）だけでは身につけません。リスキリングやリカレント教育を、効果的に採り入れていく必要があります。本ラウンドテーブルでは、P2M（Project & Program Management）の知識体系を用いた「GX人材教育のプログラムマネジメント」をテーマに、産官学民の第一線で活躍されているの方々にご参加頂き、そのあるべき姿と課題解決への道筋を議論したいと思います。

テーマ2【ハイブリッド開催】：P2Mで語る地域活性化

オーガナイザー：岡田久典（早稲田大学）

概要：

国際P2M学会誌掲載論文を見ると、近年、地域活性化をP2Mの観点からとりあげた論文が増加しており、P2Mの重要なジャンルとなっている。地域活性化の専門家からみてP2M活用の意義は何か、今後どのような展開が期待できるのかについて、オーガナイザーの報告を初めとして、報告者からの問題提起をベースにラウンドテーブル形式で議論する。また、近年その重要性が語られることが多くなった実務家教員（志望者含む）の博士号取得を支援する学会（査読の公平性・厳密性の維持は当然として）という点も議論の対象とする。

テーマ3【ハイブリッド開催】：P2Mを活用した現場改善

オーガナイザー：小笠原秀人（千葉工業大学）

概要：

近年、SDGsや新様式（ニューノーマル）に代表されるように、そもそもの価値観に対する変化が起こり続けており、従来の当たり前や前提が通用しない状況に直面することが増えてきました。見通しが立たず、現場の改善を進めるにおいても不安を感じる場面は少なくないのではないのでしょうか。本テーマでは、最初に、「プロセス改善とP2M」の全体像を俯瞰します。そのあと、P2Mを活用して現場改善を実践した事例を報告し、参加者のみなさまとP2Mを活用した現場改善の進め方について、さまざまな視点から議論したいと思います。

8. 研究発表大会参加費関連

- ◆ 大会参加費（今大会の参加費支払いは 全て事前振込みのみにて受け付けます）

会員	： 正会員、法人会員に所属の方	9,000 円
	： 学生会員	3,000 円
非会員	： 社会人、社会人学生	12,000 円
	： 学生、大学院生	5,000 円
	午後のラウンドテーブル・基調講演のみ参加（会員・非会員）	3,000 円
	後援／協賛団体	9,000 円

下記学会の銀行口座宛にお振込下さい。（振込最終締切：2024 年 4 月 12 日（金））

4 月 13 日（土）以降は、参加申込ならびに参加費振込の受付は致しません。

また、4 月 12 日（金）迄に未振込の場合は、投稿論文を予稿集に掲載致しません。

※予稿の筆頭著者（当日の発表者）は、国際 P2M 学会会員に限られます。当学会に未加入の方は、遅くとも 2024 年 4 月 5 日（金）までに入会手続きを済ませてください。新規入会には、上記参加費とは別に、正会員が 12,000 円（入会金 2,000 円、年会費 10,000 円。社会人学生を含みます）、学生会員が 6,000 円（入会金 1,000 円、年会費 5,000 円）、必要となります。

※春季研究発表大会に向けて新規登録する方の年会費は 2024 年度として扱います。

尚、入会費の振込み先は ホームページ及び入会申請フォームに記載の「ゆうちょ」口座です。大会参加費振込口座とは異なりますのでご注意ください。

入会手続きの詳細：こちらをご覧ください → <http://iap2m.org/accept>

- ◆ 情報交換会費用：4,000 円【当日払い：5,000 円】

- ◆ 大会参加費振込み先銀行口座：

三井住友銀行（銀行コード：0009）

飯田橋支店（店番号：888）

普通預金（口座番号：7098073）

口座名義（一般社団法人 国際 P2M 学会）

※大会参加費の領収書（PDF）をメールで送付いたします。宛先の指定がない場合は本人宛の領収書になりますので、ご注意下さい。

- ◆ 留意事項

※ 振込済みの参加費は、不参加の場合でも返金できません。

9. 参加申し込み方法

◆ 参加申込期限：

論文投稿者 4月5日（金）迄に申込み登録を済ませてください。

大会参加のみの方：参加費振込の締切4月12日（金）迄に申込登録を済ませてください。

◆ 研究発表大会参加申込みはこちらから（注．発表者も、申込み登録が必要です）

http://www.iap2m.org/regist_taikai.html

10. 発表者への要旨と予稿の投稿登録に関するご案内

◆ 要旨の投稿期限及び方法：これに基づく研究発表プログラムは別に掲載します。

投稿期限（延長）：2024年2月26日（月）→3月11日（月）23時59分

投稿方法：要旨は、次の URL から、web 登録画面に従い入力して下さい。

http://www.iap2m.org/regist_smallcongress.html

査読選択：予稿論文の審査を希望される方は、査読希望「●有」を画面上で選択してください。
尚、採択後の論文の学会誌掲載料は 30,000 円です。

投稿形式：スライド形式のみの予稿も歓迎します。但し、その場合、査読は選択できません。

◆ 発表予稿投稿期限：2024年3月25日（月）18時

厳守 ※締切後の投稿は一切受け付けられません。

※**要旨の投稿期限は延長しますが、発表予稿の投稿期限は延長しません。**

投稿方法：要旨投稿時に登録されたメールアドレス宛に、後日、編集委員から「予稿投稿方法」に関するメールが届きます。それに従い、MS-Word および PDF 形式の予稿を投稿してください。

◆ 受付メール確認のお願い

要旨及び予稿投稿締切後、編集委員より受付メールを登録アドレス宛に送信します。

なお「(at)iap2m.org ((at)を@に読みかえてください。）」のドメインから届くメールが、迷惑メールフォルダに入らないように設定してください。万が一、着信しなかった場合は、下記学会事務局宛にお問い合わせ下さい。

国際 P2M 学会事務局 <http://iap2m.org/con-2/>

◆ 査読を希望される方へ：

査読論文：当学会では、予稿が査読論文として審査されます。

ただし、発表された論文に限ります。

頁数：最大 20 ページ

論文形式：本学会 HPI「学会論文関連情報」（下記 URL）にある規程等（「国際 P2M 学会誌投稿規程」、「学会論文投稿規程補足」ほか）を遵守してください。また「学会論文サンプル」も下記 URL に掲載されていますので、ご活用ください。

学会論文関連情報：<http://iap2m.org/ronbun-info/>

- 補足 : (1) 予稿集に掲載された論文は、辞退などにより発表されなかった場合も、同じ内容では再投稿はできません。
- (2) 予稿に P2M との関連性と関連参考文献を明記願います。
当学会の過去の論文誌は、J-stage から閲覧できます。
<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/iappmjour/-char/ja>
- (3) 論文執筆経験が浅い方は、「11. P2M セミナー動画の掲載」で示した YouTube「IAP2M チャンネル」にある論文の書き方に関する動画を視聴するほか、学術論文作成経験者から論文作成の指導を受けることをお勧めします。
またスライドではなく論文を予稿として投稿される方は、英文要旨（または英文本文）について、可能な限り英文としての品質向上に努めて下さい。

- ◆発表方法：発表者に対して別途メールにて連絡いたします。会場での発表、遠隔地よりオンラインでの発表より選択可能です。議論を活発にするため会場での対面での発表を推奨しますが、オンラインによる発表であっても査読に不利になるなどの影響は全くありません。
- ◆発表時間（予定）：発表 15 分以内、質疑応答 5 分（全体で 20 分以内）
- ◆発表奨励賞：受賞者を選出し 5 月中旬頃に学会ホームページ上に掲載し表彰します。

11. P2M セミナー動画の掲載

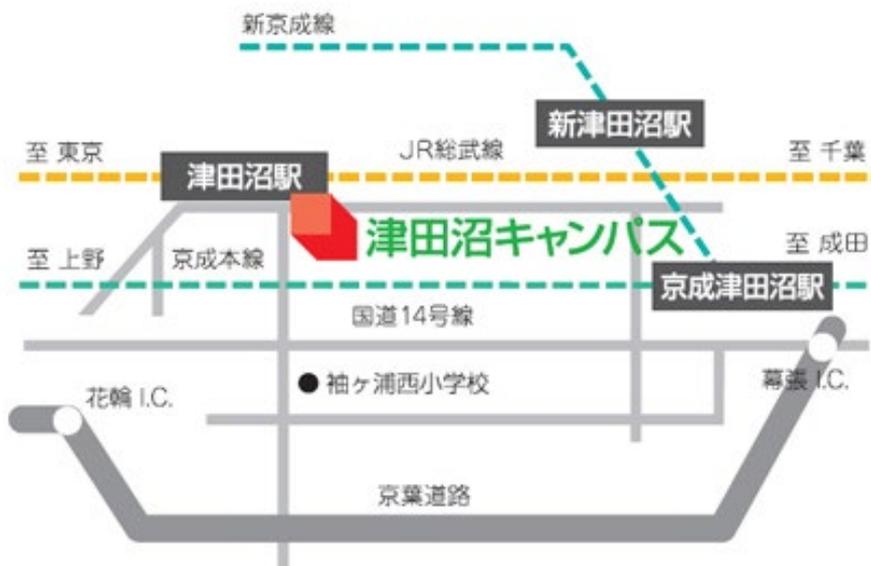
国際 P2M 学会では、P2M の基礎知識、事例による P2M の理解、適用事例や、論文の書き方について、本学会ベテラン講師陣が分かりやすく解説した次のセミナー動画（YouTube）を作成しています。P2M に関する知識を深めたい方、論文執筆経験の浅い方など、広くご視聴いただければ幸いです。

詳しくは、次のリンクをご参照ください。

<http://iap2m.org/youtube/>

12. お問い合わせ先：国際 P2M 学会事務局 <http://iap2m.org/con-2/>

会場案内



JR 総武線

津田沼駅 駅前 (南口)
徒歩 1 分 < 東京駅から
快速で 28 分 >

京成線

京成津田沼駅下車
徒歩 10 分 < 京成上野
駅から快速で 38 分 >

新京成線

新津田沼駅下車
徒歩 3 分

